

令和3年度 第2回石岡市総合計画審議会 会議録

1 会議の名称

令和3年度 第2回石岡市総合計画審議会

2 開催日時

令和3年7月 13日（火）14時00分から 15時15分まで

3 開催場所

石岡市役所本庁舎 201会議室

4 出席者

19人

5 会議録（要旨）

（1）開会

【事務局】

令和3年度第2回石岡市総合計画審議会を開会する。本日の出席委員は19名で、本審議会条例第6条第2項に規定する定足数を満たしているため、この会議は成立していることを報告する。また、会議については、石岡市総合計画審議会傍聴要綱に基づき公開とする。それでは、次第に沿って進める。初めに馬渡会長よりあいさつをお願いします。

（2）会長あいさつ

【会長】

円滑な議事進行に努めたい。

（3）議事

1) 基本構想（案）について

【会長】

本日は「基本構想・基本計画について」を議題とする。これまでの審議内容を踏まえた基本構想案についてご審議いただき、さらに、基本計画における基

本施策の構成案についてご審議いただく。はじめに、事務局より、基本構想（案）について、資料1の説明を行う。

【事務局】

（資料1について説明）

【会長】

基本構想案についての意見・ご質問を承りたい。基本構想，基本理念，共通テーマが示されたが，ぜひ皆様それぞれの立場から，あるいはさまざまな現状・課題を踏まえご意見をお願いしたい。持続可能な社会の実現として，SDGs，情報通信技術が掲げられているが，特に重要だと考えている。人口減少により人手不足となると，テクノロジーは重要となる。その際に，テクノロジーをどのように柱として入れているのかなと思った。テクノロジーを挙げるのであれば，もっと強調するような書き方をしてもよいのではないか。基本計画の中でテクノロジーについて記載するにしても，今後の社会を見通したうえで，人手不足等を考えた場合に，テクノロジーについてはやはりどこかで踏まえて見せるような工夫が必要と考える。石岡市の魅力である歴史についても，テクノロジーという別の角度から見せると，働き口も含め新たな人の流れをつくり，さらに働くだけではなく生活にも潤いをもたらし得る部分があると思う。

【委員】

基本構想について，よくできていると思う。特に，「チャレンジする市役所」という考えについて，冊子だけでなく，もっと大きく市役所の横断幕のように出すなど見える形にして，どんどん市民にアピールしていただきたい。この1，2年間の審議の結果が計画期間でつながるようにして欲しい。

【会長】

縦割りの課題に関するご意見を頂戴したが，今回の基本構想では明記されているため，それぞれの担当だけではなく，より一体的に取り組むものとして行政はもとより，人手が足りないという現状があるため，市民を含め，さまざまなステークホルダーによる共に働く「協働」もまた重要であると考えます。

【委員】

安全・安心や都市基盤・環境について，熱海の土砂災害と産業廃棄物のニュースと関連して，石岡市にも条例があるものの，かなりの不法投棄が起こって

いるようである。不法投棄について、本市の環境面からの解釈について、もう少し具体的に踏み込んだ形で言及し、重点的に取り組むべきだと考える。というのも、石岡市は災害が少ない場所であると同時に、産廃がつくられやすい環境でもある。こういった箇所が災害につながり得るため、もう少し具体的に踏み込んだ施策が必要だと思う。

【会長】

今後、計画について議論していく中で、熱海市の土砂災害の例は他人事ではない。安心して働く、安心して通学する、安心して子育てする、安心して暮らし続けるために、一見、小さなこともかかわってくるのだという問題提起だと思う。この点については、基本計画の中で議論していきたい。

【委員】

基本構想は、非常によく分析されていると同時に、提示のような基本目標に沿って施策を展開していくことも理解できた。ただし、限られた時間・財政の中で考えたとき、それぞれの分野において、何が一番必要であり、重要なのかという点についてはどうなのか。それぞれの分野で取り組みながら走っていくことは重要だが、市として何が最優先なのか、各分野の中で現在何をやっていて、全体の目標に向かってそれぞれの立場の中でどのように進んでいくのかを明確にすることが、今の世の中には必要ではないか。

【会長】

ご指摘のとおりである。今後、1年間の終わりに、それぞれの柱に沿って進捗状況を確認することがある。進捗状況はケースバイケースであって、例えば、冒頭で挙げた「テクノロジー」や昨今話題の「DX」はこれから検討ということになる。スタートは一緒でも、当然ながら、進める程度については、優先順位はある。10年間で取組を始める中で、後発的に効果がついてくるなど、連動しているところもあるが、優先順位について考えているのかというご指摘をいただいた。こちらについては、進捗管理の中で考えていくべきである。具体的な内容については別の機会に検討したいと思う。

【副会長】

基本構想（案）の11ページに「市民満足度調査から見た本市の展望」についてまとめてあるが、「地域医療の充実」の業務改善必要度が高くなっている。令和2年7月から休日の内科診療を行っていないことや、医師不足等による診療の実施の不足など、石岡市民は、生活において、医療が充実していないこと

に対し、不安であると思う。いろいろな分野で問題を抱えている中で、医療の充実について早めに取り組むためにも、優先順位を考えていただきたい。議員にも現状を踏まえていただき、石岡市の医療を充実させていくためにも、頑張ってください。スピード感を持ってやらないと、施策をただ束ねただけで、だらだらとなってしまうと考える。

【会長】

マーケティングの分野で、世の中には出来ないことや不可能なことの「不」をとってしまえば「可能」となるという考え方がある。一方、「不可能」には理由がある。民間企業の立場から見て「不」を取り払うために、情報、利害関係を判断されていくのだと思う。

【委員】

将来像として「誰もが輝く未来へ 共に創る石岡市」とあると同時に、共通テーマにも「共に創るまちづくりの推進」があり、表現がほとんど同じということに違和感を覚える。また、共通テーマに「持続可能な社会の実現」に続き「SDGs・情報通信技術」とあるが、「SDGs・情報通信技術」は括弧に入るものなのではないか。

【会長】

それぞれの文言には意味付けをしながら、必然性・重要性のある言葉を与えるべきである。また、「SDGs・情報通信技術」に関しては、括弧を意識的につけていないのか事務局にお尋ねしたい。

【事務局】

他の文言にも共通する事項だが、現段階で示している内容は、あくまで方向性であり、見せ方については、今後冊子にしていく中で、改めてお示ししたいと考えている。括弧については、つけるという方向で調整している。ご意見をいただきながら進めていきたい。

【委員】

共通テーマが3つ挙げられており、1つ目と3つ目が「人口減少対策」や「持続可能な社会の実現」となっており、課題に対する対策というイメージだが、「共に創るまちづくり」については、1つ目と3つ目と比べるとぼんやりしている印象がある。例えば「市民がつくるまちづくりの推進」など、市民が積極的にまちづくりに関わっていくという意味合いとするように検討してみて

はどうか。

【会長】

主体が誰なのかをより具体的に示す必要があるといったご意見だった。すなわち「人口減少対策」や「持続可能な社会の実現」と比べて「共に創るまちづくりの推進」は具体性に乏しい。主体的に市民が中心となるという意味合いを持たせてはどうかとのことだ。一方で、そうすると、交流人口や石岡市以外の人は排除されるのかなどといった角度からのご意見が挙がる場合がある。交流人口は重要であるとともに、ヒト・モノ・カネが血液のように循環することと、市内だけでない様々な交流を生みだしていくことを大切にしていく必要がある。さらに、テクノロジーを通じて、世界とのつながりも推進される。そういった部分をどのように見せるかという点は大変重要である。

【委員】

今のお話を聞いている中で、共通テーマの「共に創るまちづくり」が、構想全体にかかっているような印象がある。重要であり強調したい気持ちも分かるが、重複感が否めない。

【会長】

違和感さえ出てきているとのことだ。

【委員】

内容を見る中で、原点に立ち返るような発言になってしまうが、総合計画というものは、行政・市民の皆さんなどに使い続けられる総合計画である必要がある。基本計画には300近くの事業がある。基本的な考え方については、しっかりとベースに載せることが重要である。また、全職員の指針となる総合計画である必要がある。さらに、財政運営の指針となる総合計画、人事運営の指針となる総合計画、PDCAの核となる総合計画を含めた意味での総合計画を練り上げていく必要があると感じる。

【会長】

まさしく、今後、この「指針」に沿って方針を展開していくことになるため、委員から出たご意見も含めてご検討いただきたい。特にPDCAに関連して、計画をつくり、実行していくと、評価がおざなりになりがちである。過去・現状を踏まえて論理的な姿勢を見せていただきたい。

【委員】

共通テーマに「SDGs」があるが、SDGs自体のテーマが広がっている。17の目標に、169のターゲットがある。各施策が少しずつSDGsに関わっているほか、施策を進めた結果として、共通テーマである「人口減少対策」も含まれることとなる。その部分が理解できない。

【会長】

他自治体の総合計画でもSDGsについて言及しているが、ご指摘の通り、実際には全てに関わってくるものである。石岡市として、今後10年間の指針をつくる中で、SDGsに関する言葉遣いや扱いは非常に難しい部分である。

【委員】

SDGsについては、総合計画の中に入れるべきだという意見を述べてきた。国連で2015年に可決されて2030年を目標年に進めていくものとしている。石岡市で2030年を目標年度とする総合計画を策定する中で、SDGsを抜かして考えることは不可能だと思う。大事な10年間として、強調して入れることが望ましいと考える。

【会長】

より強調するために取り入れるべきだというご意見であった。他にもご意見をお願いしたい。基本構想に関するご意見を幅広く伺った上で、今後は、基本理念から政策目標などに、より具体的に落とし込んでいく予定である。

【委員】

10年前も同じような施策が構想されたと理解している。結局、10年後も同じようなことで改善されずにいることがあると思う。具体的には、教育、医療、歴史関係、駅前などの商業地の空洞化などの課題について、10年・20年以上前から議論されていたのにもかかわらず、かえって後退化している部分もあると感じる。今回の策定をきっかけに具体的に前に進めていかないといけないと切に思う。文言にしたから実行できるということではないため、計画をつくったからには、目標に近づけるように取り組んでいかななくてはならない。せっかくすばらしい政策目標を出しているので、行政として本格的に進めることが重要であると同時に、議員さんの前向きな協力がないと難しいと思う。

【会長】

計画通りにはなかなか進まないという現状について、見方によっては思った

通りになっていない、文言だけがあって実態が伴っていないなどといった不満点が当然出てくると思う。その時々で、知恵を絞った上で、全国的な少子高齢化の中で石岡市も相当苦勞しているところだと思うが、現在、節目の時期に来ているのではないか。これまでよりも厳しい視点で過去を振り返った上で、それぞれ推進するのかどうかについて選択すべき時期に来ていると考える。優先事項に関するご意見もあったが、まさに優先順位が問われると思う。

【事務局】

基本構想においてご審議頂きたい事項として、将来像の「誰もが輝く未来へ共に創る石岡市」を事務局案として提示している。また、代替案として「誰もが花ひらく未来へ共に創る石岡市」を掲げている。「輝く」という文言は、これまでのかがやきビジョンを踏襲し進めることを主軸に置いている。一方、「花ひらく」については、花が咲く、あるいは、新しい分野を開拓するという意味合いで代替案を用意している。こちらについてご審議頂きたい。

【会長】

これまでの議論を踏まえたうえで、将来像の文言について、ご意見・ご審議をお願いしたい。今のところ事務局からは2つの案が示されている。

【副会長】

将来像の「輝く」と「花ひらく」について、「花ひらく」だと印象が柔らかくなってしまふ気がする。「輝く」について程度はあれ、だれにでも当てはまるが、「花ひらく」は印象が弱い。

【会長】

「花ひらく」と言っ、花ひらいていないというご意見もあるかもしれない。今後、基本計画で具体的な施策を検討する中で、基本構想の将来像の「輝く」に対し異論があるとは考えにくい。あらかじめ事務局案でよろしいか。代替案ではなく「誰もが輝く未来へ共に創る石岡市」を将来像とするということで、異存ないようであればご了承いただきたい。

(全員一致)

【会長】

ほかにご意見がないようであれば、最後に意見を承ることとし、次の議題にうつる。

2) 基本計画（基本施策の構成案）について

【会長】

「基本計画（基本施策の構成案）について」の資料について事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料2説明）

【会長】

今後、議論をしていくために、基本施策について肯定も含め、解決策をどのように書いていくかということかと思う。率直な感想として、次回までに内容を埋めるのは大変だなと感じた。というのも、現状と課題があり、なぜ現状と課題が生じているのかという原因を突き止めるからこそ解決策が整理されていく。考え方として、感染症予防と同様に、マスクをしなければいけない、だけではなくなぜマスクをしなければならないかという因果関係があってしかるべきである。

もう一点は、委員からも意見が挙がったが、いつまでに解決するのかという点を明確にする必要がある。具体的なイメージも含め、10年間の中で優先順位をつけながら、いつまでに達成できそうかということも書いていく必要がある。次回までに内容を提示するとなると、職員が相当苦勞する部分かと思う。基本施策1つ分作成するのに、これまでの調査など総動員でつくる必要が出てくる。それぞれの施策に対し、市全体あるいは役所全体で課題をどのように捉えていて、解決に向けてどのように取り組むのか、あるいは現状だけでは対応できない場合は行革などで組織を変えるか、などいろいろな事項に基づき検討されることとなる。大変だとは思いますが、ぜひオール石岡市で頑張ってください。

【副会長】

会長から先ほど、「テクノロジー」が重要という話があったかと思うが、会長として具体的にどのような形で「テクノロジー」という論点を入れていく必要があると考えるか。さまざまな自治体でご活躍されている中で、石岡市がよくなっていくためのお考えがあればお願いしたい。

【会長】

テクノロジーは日々変わるものであり、現在、AIやDX（デジタルトランスフォーメーション）などが問われている。「DX」と聞いてもまだ耳なじみがないかと思う。「バリアフリー」という言葉が出てきた当てもその意味が分からないと言われていたが、10年も経つと、誰もが使えるようなツールになる、あるいはさらに違う用語が出てくる可能性もある。そういった部分が見通せない中で、10年後に修正・変更の余地を考えなければならない。弾力的に進めつつ、あいまいにならないようにする必要がある。これは、非常に難しいことである。

「テクノロジー」という言葉が10年後にどのような扱いとなっているかが分からない。また、DXもようやく広く使われ始めているが、勉強していかなければならない。それが本当に解決策になるのか、石岡市に必要な考え方なのかということも含め、人材が足りない、少子高齢化といった状況に対してどのように対応するのか、マンパワーだけで賄うのかなど、持てる資源、今後の見通しの中で今後必要なものの因果関係を明らかにする作業が必要である。

【委員】

人口が減ってしまうなどの現状については、各課で状況をつかんでいるのでしっかりと記載することが必要である。また、産廃問題など、なぜこれまでにそれが解決できなかったのかという点を現状の中に書けば、そこにある悪さが明確となる。公共交通機関についても、電車やバスを利用している人はそれほどいないと思う。乗り合いタクシーやバスが本当に良いのか。運行するバスに関する条例を作った上で、特区をうまく活用して利用を促進するなど、柔軟に考えていく必要がある。そのためには、現状をしっかりとつかむことが重要である。

【委員】

今挙げた意見と同じような意見だが、各施策に関する情報を各課から提示するというのではなく、むしろ逆だと思う。市民が目にする情報、データについては限られている。情報を市から提示していただいた上で、その中で何が重要で、どこから取り組んでいくべきなのかを議論することがこの審議会の役割だと考える。情報が分からないと、生活の中でどこから順に取り組んでいくべきなのか、判断のしようがないというのが現状だと思う。各委員でやりたいことは持っていると思うが、それらを整理するために、情報を選択し、方向性を出し、集中的な解決策をつくっていくことがこの審議会の役割だと思う。

【会長】

議論のための材料について、まずは現状について次回以降で出してほしいという意見かと思う。一方、さまざまな利害関係やすべての情報を市民が手に入れることが難しく、意思決定をする行政や議会で情報を保有している。この場で情報等を取捨選択するのは身が重いと考える。審議会では提示された内容について検討し、さまざまな意見や指摘を行うという形になるかと思う。情報を知るといことは重要であるため、次回以降、現状・これまでの取組み、原因を含め課題について整理してこの場に示されることを期待している。

【委員】

議会での決定を行わない限り決まらないという点は理解できるが、この場においてさまざまなことを議論できるよう、少なくとも情報の共有が必要だと思う。大きな議論ということではなく、市民としての意見を出すための判断材料が欲しいという意味で発言させていただいた。

【会長】

石岡市が活性化するためにもいろいろな情報を共有していきたい。ほかに要望も含めてお願いしたい。事務局は、これまでの意見について聞いてメモをしているとは思いますが、現時点で事務局から所感があればお願いしたい。

【事務局】

さまざまなご意見に感謝する。現状分析に向けて、これまでも行っているが、庁内において施策評価シートを基に分析を行い、施策の方向性を検討しており、それらを共有していきたい。

【副会長】

石岡市の行政全てとは言わないが、市民から見て、近隣自治体と比較するとすべて進むのが遅いという感触がある。市民としてそういった声を聞くと悔しくはあるが、中には石岡市の行政は50年遅れているという感想があるということやはり問題であると感じる。時間には限界があるため、決めるだけでなく、できるだけスピーディに実行する必要がある。職員がさまざまな業務を抱えていることは重々承知だが、石岡市全体の毎日の仕事の進みがもう少しスピーディになる仕組みがあれば市民の生活も楽になるのかなと思う。

【委員】

委員のご意見を聞いていると、石岡市において課題が多いのが現実だと感じ

る。10年以上前からいろいろな審議会が開催されてきている。10年前に計画を基に決定した事案でも解決できていない問題もある。教育の面からすれば、学校の統廃合については12～13年前に決定したものであるのにも関わらず、いまだに進んでいない。行政に携わる議員にも追うものがあると認識しているが、最終的な判断は市長の決断である。何をやるにしても、市長が決めたことについて、市民の理解を得られるように頑張るので協力をお願いしたいという決断が重要だと考える。石岡市が合併してから15年近く経とうとするが、未だに「石岡地区」、「八郷地区」という文言が聞こえてくる。15年経っても統一感のある行政が実現できていないのではないか。その点を払拭し、石岡市が一つになるという感覚で行政にあたっていかないと周りの市町村から遅れてしまうと思われる。駅前の問題については、きちんとした解決策がやっと示されたところである。人口減少対策についても、住む場所がない、他市町村からの市民を受け入れる施設もない、教育もきちんとしていない、福祉や医療も遅れている、という評価を周りの市町村は下している。まずは、そういった地域間の格差を払拭し、石岡市全体をどのようにしていくのかを、資料1・2のように示すだけでなく、実行しなければ何の意味もない。未だかつて小学校の統廃合が進まず、地域住民はすでに統廃合をしてくださいと訴える段階にきている。なぜ統廃合が遅れているのですかという声も挙がっている。行政が、「やりますよ」と言っていることが遅れている。周りの市町村である小美玉市をはじめ、鉾田市、かすみがうら市などは統廃合が完了している。これまで市長が何度も変わったこともひとつの要因かもしれないが、その問題とはまた別として考えなければならない。周りの市町村からは、特急も石岡市に停まらなくなってしまっているのではないのかという話も耳にする。行政のきちんとした考えについて、より具体的に、より現実的になるような施策を示していただきたい。審議会で決まったことについて実行するということがなければ、なんのための審議会か分からなくなる。15年前と比較すると、成果の上がったことはあまりないような印象である。職員の方は大変だとは思いますが、いかに具体的にして、実行しやすい施策で、かつ、審議会委員や市民がこれだったらいいよねという施策を打ってほしい。また、例えば公共交通の維持費が現在どの程度かかっており、税金がどの程度使われているのかというのが分からないと審議のしようがない。さらに、人口減少対策に関しては、石岡市が魅力あるまちではないという声が聞こえてくるが、では、具体的にどんなことを進めたら魅力的になるかという答えを期待している。10年先ではなく、明日のことを具体的に示し、この場で審議し、優先順位を考えていかないと、先に進まないし、形にならない。職員が日頃大変であることは承知しているが、審議会に出席している委員の皆さんは市の将来のことを考えている方である。具体的な方針を示していただかない

と、審議をしても空振りになる。10年前も同じことをやったということにならないよう、職員の皆さんには、ここにいる皆さんを中心に形にしなければならぬと意識していただきながら、構想をお願いしたい。

【会長】

石岡市では、議会においても同様の議論があるのか。すなわち、審議会では石岡市の状況が芳しくないという話が出ているが、市民が受け取ることのできる情報が限られているということもあり、議会のほうがさまざまな検討を行うための情報を得ていると認識している。

【委員】

すぐに実現できるものもあれば時間のかかってしまうものもあるが、どんなものでも構わないので情報を示したうえで、石岡市が抱えている大きな問題はこれですよということを具体的に行政から示していただきたい。そうすればよりよい解決策が導き出されるのではないかと。

【会長】

委員としての意見をいただいた。さまざまなご意見に感謝する。これらのご意見は事務局で取りまとめたうえで次回以降、政策目標ごとに具体的な施策の内容を審議する予定である。全体を踏まえたいと発言したいことや、言いそびれたことも含めお願いしたい。

【委員】

答申を出す時期はいつごろか。

【事務局】

今後の予定について、答申は来年年明けとなる。今後の詳しい予定については、基本構想が大枠決まっているため、次回以降は基本計画の具体的な施策について審議を進める。複数の政策の審議について取りまとめたものについては、12月にパブリックコメントで意見を募る。

【委員】

さまざまなご意見を踏まえ、答申を行うことになると思うが、予算化もしなくてはいけない。2年間の議論を冊子にしたものについて、年度ごとに優先順位を決めていかないと、意見をまとめたただけになってしまう。結果を出すために、例えば令和4年度はこれをやろうということで、予算化できるように決め

ていただければと思う。

【会長】

大変な仕事かと思う。

【会長】

審議案件は以上である。次回以降は、施策の内容に関する審議となる。司会については事務局に戻す。

(4) 閉会

【事務局】

ご審議ありがとうございました。以上で閉会とする。次回の日程については改めて通知させていただく。ありがとうございました。